

薬局・薬剤師のDX推進を支援

EMシステムズ「MAPs for PHARMACY DX」

EMシステムズは、薬局向けクラウド型業務支援システム「MAPs for PHARMACY DX」の年内リリースに向け開発を進めている。2019年にリリースした「MAPs for PHARMACY」の製品コンセプトをリニューアルし、これからの薬局・薬剤師業務のデジタルトランスフォーメーション(DX)推進を支援する

薬局業界では、対物業務から対人業務への対応やコロナ禍の影響による薬局業務形態の進化、診療報酬改定への対応など大きな環境変化があり、その対応に迫られている。

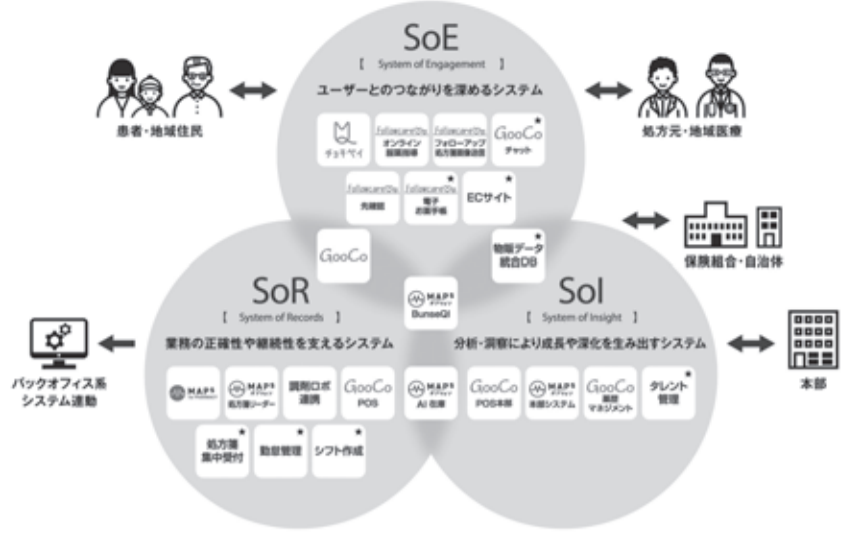
「MAPs for PHARMACY DX」は、レセコンや電子薬歴の枠を超え薬局DXを通じて、「モノから人へ」に対応した薬局をサポートし、薬剤師や患者の顧客体験であるユーザーエクスペリエンス(UX)を高め、#TX(Thanks Transformation)を実現する「オー

ルインワン・ファーマシープラットフォーム」

DX推進に役立つシステムとして、大きく三つの方向性を意識している。各種機能を、▽ユーザーとのつながりを深める「SoE」▽業務の正確性や継続性を支える「SoR」▽分析や洞察により成長や進化を生み出す「SoI」の三つに分け、各領域での機能拡充を目指している。

新たな機能の一つが働き方改革を支援する「処方箋集中受付」。クラウド型レセコンの利点を生かし処方箋入力作業がどこでも行える。電子処方箋やオンライン服薬指導等への対応など複雑化する薬局業務もワンコントロールでシンプルに管理が可能。また、医薬品発注業務も薬歴情報と人工知能(AI)の活用により業務を大幅軽減し、本部主導の在庫管理を実現する。

さらに、電子薬歴と患者のスマート



フォンを連携することで、先確認からフォローアップまで対応。服薬指導やフォローアップでは、処方内容に応じたサジェスト機能があり、薬剤師のキャリアに依存しない質の担保と業務効率化につながる。

検査値をもとに最適な投与量や禁忌などを自動的にチェックする機能もあ

り、リフィル処方箋への対応を後押しする。他にも、医師への報告をサポートするAI報告文書作成(オプション)や企業や店舗内、地域連携、医師等とのコラボレーションに活用できるチャットアプリ、薬局経営と薬剤師評価を支援するデータ分析ツールの拡充を予定している。

小児へのチェック機能も充実

ズー「ホルトノキ」

ズーが8月にリリースした「ホルトノキ」は、薬局業務の効率化や対人業務の充実を目指したパソコンとタブレットのどちらでも使えるクラウド型電子薬歴だ。適切な内容に服薬指導を標準化し、シンプルな操作で薬歴記載を短時間で完了させることを目指して開発された。

ホルトノキでは、前回処方と今回処方の違いが一目で分かるようになっており、素早く確認をして服薬指導を行うことができる。副作用の状況によって、確認すべき検査値の項目が自動でセットされるため、確認漏れを防ぐことができる。

服薬指導の内容は、各社のレセコンから処方データを受け取り、薬剤や患者の情報と照らし合わせることで、マスタから服薬指導文章の候補をチェック項目で表示。薬剤の効能効果についての指導はもちろん、使用上の注意、

生活上の注意、併用薬、副作用など、様々な視点でマスタは作成されている。服薬指導文章のマスタは細かいカスタマイズも可能で、薬局や企業ごとのこだわりを反映することもできる。共通の指導文を参考に服薬指導を行うことで、経験やスキルの異なる薬剤師の服薬指導内容の標準化を実現する。

また、服薬指導の内容に合わせてチェック項目を選択して転記ボタンを押すだけで、薬剤師が書いたような自然な文章で素早く薬歴の記載を完了することができる。これにより薬歴記載業務を大幅に効率化し、患者とのコミュニケーションの充実化を図ることができる。

他にも、会話しながらでもフリーハンドで記録できる手書きメモや、タブレットなどのカメラで撮影した写真を薬歴に紐づけて保存できるので、後になって忘れてしまったということ

を防ぎ、正確な薬歴記載をサポートする。

さらにレセコンメーカーならではの独自の処方鑑査機能を搭載しており、処方内容に対して患者の既往歴やアレルギー、併用薬、重複投与、薬剤の用法用量などを自動でチェックし、調剤後の手戻りを防ぐ。特に小児の処方箋における数量・日数チェック機能には力を入れており、年齢や体重で異なる分量を計算して、調剤ミスの防止につながる。

同システムはウェブブラウザで動くクラウド型システムであり、タブレッ



トでもPCでも使えるので場所を選ばずに使用できる。データはクラウド上にあるため、大災害等の緊急時でも活用可能だ。

ズーでは、今後ホルトノキを電子薬歴にとどまらず、処方入力やレセプト請求、在庫管理、本部、会計など、様々な機能を追加してオールインワンの調剤システムとしていく計画だ。

第55回 日本薬剤師会学術大会

(順不同)

第一薬科大学
〒815-8511
福岡市南区玉川町二二一

神戸薬科大学
〒658-8558
神戸市東灘区本山北町四一九一

立命館大学薬学部
〒525-8577
滋賀県草津市野路東一丁目一

京都薬科大学
〒607-8414
京都市山科区御陵中内町五

横浜薬科大学
〒245-0066
神奈川県横浜市戸塚区俣野町六〇一

明治薬科大学
〒204-8588
東京都清瀬市野塩二一五二二一

武蔵野大学薬学部
〒202-8585
東京都西東京市新町一三三〇番

東京薬科大学薬学部
〒192-0392
東京都八王子市堀之内一四三二一